

お年寄りや子どもたちを地域で見守る活動を描いた漫画「ゆかいな!ほのぼの地区物語」が完成した。山鹿市社会福祉協議会の依頼を受け、作画を担当したのは崇城大芸術学部の学生たち。5日、山鹿健康福祉センターであった完成披露会で、「地域で支え合う意義をたくさんの人に伝えたい」と力を込めた。



完成した漫画を手に持つ崇城大芸術学部の学生ら＝山鹿市

見守り ほのぼの物語

作 山鹿市社会福祉協議会
漫画 崇城大芸術学部生ら

地域で支え合う伝えたい

市社協が「堅くなくて読みやすい福祉の手引書を作ろう」と企画。職員が実例を参考に考え、たストーリーを、同大芸術学部マンガ表現コースの9人が漫画で仕上げた。B5判、32ページ。作製した2300部は、山鹿市の民生委員や小中学校などに配布する。

計4話を掲載した。第3話は、気難しい1人暮らしの86歳の

「権三（ごんさん）」が主役。発作で倒れるが、見守り活動で近隣住民に発見され、事なきを得て、周囲に心を許すストーリー。2年の濱武茅乃（はまぶすの）さんは「コミュニケーションの大事さが伝わる。同世代も含め、多くの人に読んでほしい」と話した。

個性豊かな登場人物は、3年の野村彩絵（のむらいろは）さんが、八代市千丁町で一緒に暮らす祖父母らにイメージして描いた。「お年寄りが身近な存在だとあらためて思った。近所の人にも、もっと自分から声を掛けていきたい」

打ち合わせを重ね、完成には半年を要した。指導した非常勤講師の岩田紘典（いわただひろのり）さんは「助け合い、支え合いのメッセージが伝わる作品に仕上がった」と、出来栄に自信を見せた。

（潮崎知博）



個性豊かな人物が登場する「ゆかいな!ほのぼの地区物語」